

なつかしの丘

帝千ネ芦屋時代映畫

脚色並監督者

志波 西果氏
谷口 禎氏

主要役割

鍛治屋文七	高堂 國典氏
妻 お初	尾崎 静子嬢
倅 七郎	里見 明氏
片目の源	松本 泰輔氏
娘 お春	末廣 麗子嬢
弟 春次	嵐 徳太郎氏

解説——「名犬チャック」について志波西果氏が脚色監督製作した現代劇である。

略筋——鍛治屋文七は片目の源の爲に、恐しい罪名を着て獄中に廿年を送らねばならなかつた。彼の遺兒十郎は隣村の學校に奉職して居た。

數奇な運命は源の子春次を彼の教兒にさせたが七郎が前科者の子と知れた時、彼は愛する生徒等を振切つて老父の下に歸つた。七郎を慕ふ春次は父の犠牲になつた姉を想ひ、恩師を憶ひ病床の夢路を辿つた。やがて春次が恩師と別れたなつかしの丘に來て師を送るの歌を唄ふ時、それを聞いた源の良心は甦つた。そして源と七郎は愛憎の域を越へて互に握手する事になつた。